

令和6年6月定例会 県土整備委員会（事前）

令和6年6月10日（月）

〔委員会の概要 企業局関係〕

梶原委員長

ただいまから県土整備委員会を開会いたします。（10時34分）

直ちに議事に入ります。

これより当委員会の閉会中継続調査事件を議題といたします。

まず、企業局関係の調査を行います。

この際、企業局関係の6月定例会提出予定議案等について理事者側から説明を願うとともに、報告事項があればこれを受けることにいたします。

なお、理事者各位に申し上げます。

今年度、当委員会におきましては、議案の説明等は着座のままでなされますよう、よろしくお願いいたします。

【提出予定議案等】（説明資料）

- 報告第6号 令和5年度徳島県電気事業会計継続費繰越計算書について
- 報告第7号 令和5年度徳島県電気事業会計予算繰越計算書について
- 報告第8号 令和5年度徳島県工業用水道事業会計予算繰越計算書について

【報告事項】

な し

加藤企業局長

それでは、6月定例会に提出を予定しております企業局関係の案件につきまして、御説明を申し上げます。

説明資料の3ページを御覧ください。

1の令和5年度徳島県電気事業会計継続費繰越計算書についてでございます。

川口発電所1号水車発電機改良事業、日野谷発電所1号制御装置取替事業につきまして、継続費をお認めいただいているところでございますが、表の右から4つ目の欄、翌年度通次繰越額に記載のとおり、川口発電所1号水車発電機改良事業につきまして、営業費用7,440万3,374円及び最下段の建設改良費4,048万1,626円を、また、真ん中の段に移りますが、日野谷発電所1号制御装置取替事業につきまして、営業費用538万5,000円を翌年度へ通次繰越しをしております。

次に、4ページをお願いいたします。

2の令和5年度徳島県電気事業会計予算繰越計算書についてでございます。

令和5年度の既設設備改良工事のうち、右から5列目の欄、ちょうど真ん中あたりでございますが、3億9,395万4,873円を翌年度へ繰り越しております。記載はございませんが、繰越事業の工事としましては、日野谷発電所他遠方監視制御装置取替工事など7工事となっております。繰越理由でございますが、先行する工事も含め、必要な工期を確保した

ためなどでございます。

続きまして、5ページを御覧ください。

地方公営企業法第26条第2項ただし書の規定による事故繰越額でございます。

表の右から6列目の欄、ちょうど真ん中あたりでございますが、翌年度繰越額でございます。営業費用では、日野谷発電所取水口ゲート補修工事、504万7,817円など、六つの事業で合計1億2,522万3,964円、それから、最下段の建設改良費では、既設設備改良工事のうち933万6,026円を翌年度に繰り越しております。

繰越理由でございますが、入札不調に加え、機器の設計・製作に必要な工期を確保したためなどでございます。

続きまして、6ページを御覧ください。

3の令和5年度徳島県工業用水道事業会計予算繰越計算書についてでございます。

建設改良費につきまして、右から6列目の欄、ちょうど真ん中の翌年度繰越額でございますが、吉野川北岸工業用水道改良工事のうち1億451万3,450円を、また、阿南工業用水道改良工事のうち、8,709万8,500円を翌年度に繰り越しております。記載はございませんが、繰越事業の工事としましては、阿南工業用水道送水管布設替設計など6工事となっております。

繰越理由でございますが、設計に関する協議が難航したためなどでございます。

7ページの地方公営企業法第26条第2項ただし書の規定による事故繰越額でございます。

表の右から7列目の欄、ちょうど真ん中あたりの翌年度繰越額でございますが、営業費用では、吉野川北岸工業用水道脱水機設備改良及び内部点検手入れ工事、1,717万7,617円、吉野川北岸工業用水道脱水機棟他修繕工事、2,772万6,600円、また、建設改良費では、吉野川北岸工業用水道改良工事、8,702万5,500円を翌年度へ繰り越しております。繰越理由でございますが、計画に関する協議が難航したためなどでございます。これら繰り越しました事業につきましては、事業効果を発現できますよう、早期の完成に努めてまいりたいと考えておりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。

以上が、6月定例会に提出を予定しております企業局関係の案件でございます。

なお、報告事項はございません。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

梶原委員長

以上で説明は終わりました。

これより質疑に入りますが、事前委員会の質疑につきましては、提出予定議案に関連する質疑及び緊急を要する案件とする申合せがなされておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

また、質疑時間につきましては、委員一人当たり1日につき答弁を含めおおむね40分とし、委員全員が質疑を終わって、なお時間がある場合又は重要案件については、委員長の判断で弾力的な運用を行うこととする申合せがなされておりますので、議事進行につき御配意のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、質疑をどうぞ。

須見委員

議案等ではありませんが、新ホールの関係で緊急性を要すると思いますので、何点か御確認をさせていただきたいと思います。

本日、経済委員会のほうで新ホールの整備候補地の調査結果が公表されていると思います。資料も読ませていただきました。

その調査結果の中には、本体工事費の約142億円とは別に関連工事費として藍場町第一地下駐車場の設備移設、解体等に約12億円というふうに記載がありました。

藍場町地下駐車場は企業局所管の施設と思っておりますが、現状、何台駐車ができまして、どのような管理運営の形態になっているか教えていただきたいと思います。

香川経営企画戦略課政策調査幹

ただいま須見委員より、藍場町地下駐車場の管理運営の形態について御質問を頂きました。

企業局が所管する藍場町地下駐車場につきましては、95台駐車できます第一駐車場と200台駐車できます第二駐車場を合わせた295台を確保しております。

また、藍場町地下駐車場以外に、松茂町の徳島とくどくターミナルで230台分を確保しており、これらを合わせた525台が駐車可能な二つの駐車場につきまして、令和5年度から5年間、指定管理者による一括した管理運営を行っております。

須見委員

解体及び設備の移設として、この第一駐車場の95台の部分に12億円ぐらい掛かるということが示されておるわけですが、具体的にどういう解体工事を行うのか。また、この12億円の関連工事費として出ていますが、本体工事とは切り分けて企業局が執行するのか、そのあたりを教えていただきたいと思います。

香川経営企画戦略課政策調査幹

ただいま須見委員より、第一駐車場の解体等に要する12億円、どういう解体を行うのか、それと執行方法につきまして御質問を頂きました。

本日の経済委員会で報告される新ホール整備候補地の調査結果によりますと、藍場浜公園の西エリアで新ホールを建設する場合につきましては、建物を支える基礎杭が必要ということで、地下駐車場を残したままでは建物の重量を支え切れない地盤であるということが1点。加えまして、担当部局のほうから、新ホールの地下には1階舞台の演出に必要なスペースでありますとか、舞台で使用する道具を収納する倉庫などの配置を考えているということで、第一駐車場の解体が必要と聞いております。

委員御質問の、地下施設の駐車場をどのように解体するかにつきましては、企業局としては詳細は承知していないところであります。

また、解体や移設の執行につきましては、基本的には知事部局のほうで御対応いただくものと考えておりますが、今後、担当部局のほうと協議を行ってまいりたいと考えております。

須見委員

今の時点では、企業局も詳細については承知していないということなので、その部分に対しては、当然、この委員会に掛かる前にしっかりと担当部局と話をしていただきたいかったという思いはあるのですが、この後、しっかりと話をしていただきたいと思います。

それで問題なのは、先ほど報告がありましたように、駐車場全体で525台を確保しているという答弁を頂きまして、藍場町地下駐車場と言いますと、295台のうち95台が廃止になると認識いたしております。駐車場事業の経営にも、かなり影響が出てくるのではないかと考えております。企業局と指定管理者、それぞれの経営面で影響があるのではないかと考えますが、藍場町第一地下駐車場が廃止となった場合の収支等々の見込みの算定はされておりますか。現状で、よろしくお願いします。

香川経営企画戦略課政策調査幹

ただいま須見委員より、藍場町第一地下駐車場が廃止となった場合の収支見込みにつきまして御質問を頂きました。

藍場町地下駐車場の収容台数が減少しますと、利用料金収入が減るということになりまして、その一方で管理経費の減少というのも想定されますが、現在の第一と第二の駐車場を一体的に管理しているという形態から考えますと、利用料金の収入減少による影響は受けるものというふうに受け止めています。

また、委員御指摘のとおり、指定管理者の経営と企業局の駐車場事業の経営の両面から、今後、協議・検討をしていくこととなります。

いずれにいたしましても、藍場浜公園西エリアでの新ホールの建設案の概要が今回示されたということで、今後、新ホールをはじめ、県都まちづくりの方向性について様々な議論がなされるものと考えております。

企業局といたしましても、こうした議論と並行いたしまして、藍場町第一地下駐車場が廃止になると仮定した場合の駐車場事業に与える影響につきまして、指定管理者と協議をしながら分析を行ってまいりたいと考えております。

須見委員

まだまだ仮定の話ではございますが、しっかりとスケジュール感を持って当たっていかねばならないと思います。いつまでに駐車場の検討を行い結論を出すのかということと、仮に藍場町第一地下駐車場が廃止になった場合、先ほども言われていましたけど、収入が減少、影響を受けるということなので、経営が赤字になってしまう見込みとなった場合、企業局として赤字のまま経営を続けていくのか、現状で分かればよろしくお願いします。

香川経営企画戦略課政策調査幹

ただいま須見委員より、藍場町第一地下駐車場が廃止となった場合、企業局として赤字経営を続けていくのかと、駐車場の検討を行い結論をいつまでに出すのかという御質問を頂きました。

本日の経済委員会で報告されます藍場浜公園西エリアでの新ホールの建設案の概要を踏

まえまして、今後、新ホールをはじめ、県都まちづくりの方向性に関する様々な議論がスタートするところであり、こうした議論と並行いたしまして、仮に藍場浜公園西エリアで建設する場合の今後の駐車場事業について、関係部局と協議をしながら行ってまいります。

また、民間企業である指定管理者に管理運営を委託しているため、十分な調整を行う必要があります、いつまでという具体的な時期はお示しできませんが、新ホールの検討が具体的な段階に入る前には、企業局の考えを明確にする必要があると考えております。

企業局といたしましても、県都まちづくりに関する議論と並行いたしまして、藍場町第一地下駐車場が廃止になると仮定した場合の駐車場事業に与える影響につきまして、指定管理者と協議しながら分析を行ってまいります。

須見委員

企業局として、詳細等々は承知をいたしていないということなので、指定管理者の絡みもある部分ではありますので、現在、仮の話でなかなか具体的な答弁ができないのはよく分かっておりますが、現在、稼働している施設等を解体するので、補償がどうなるのかとか等々、様々な問題が出てくると思っております。

いずれにせよ、新ホールそのものの議論と並行した形で、企業局の駐車場の検討も行われると理解をいたしておりますので、状況を見ながら、しっかりと関係部局とも問題点を洗い出しながら、様々な議論を深めていっていただきたいと思っております。

事前委員会なので、このあたりで質問を終わっておきたいと思います。

庄野委員

質問の予定はなかったのですけれども、今、須見委員からもお話が出ましたが、多分、企業局からしたら寝耳に水でえっというふうなことだったんだろうと想像いたします。現在、県市協調の新ホール整備というのは、旧の文化センター跡地を含めた土地に建設するという存在していますので、今後、徳島市、それから徳島市議会での議論も含めて、まだどうなるか分からないような事案です。藍場浜の、いわゆる御成婚広場に建つことは調べてみたら可能であるというふうなことぐらいしか、今のところは出ていないはずなんですよ。

だから、私が従前から主張しているのですけれども、県市協調の新ホールは、今まで数多くの人に関わって、実施設計まで出来上がった事業なんです。

だから、企業局さんがいついつの時期までにどうするのかを出すというのは多分無理な話で、旧の文化センター跡地というのは、県市協調の新ホールを造るために徳島市さんから寄贈いただいた約 5 億円の土地でございます。これは徳島市民の財産ですから、今後、仮に市のほうで新ホール以外に使うのだったら戻してくれとかいうふうな話になれば、あそこに車両基地もできないだろうし、そういうことであれば無理くり貴重な駐車場を解体して藍場浜公園に造るということ自体がどうなのかなというふうな難しい判断が先々いっぱい待っていますので、企業局としたら、自分たちが培ってきたというか、営業してきた駐車場を潰してしまえと、大きなお金を掛けて潰して、そこに無理くり新ホールを造るというふうな計画自体が、私はかなり無理がある計画をぶち上げたなというふうに思っております。

車両基地にしましても、これは県土整備委員会と言うべきことだと思いますけれども、先日の徳島新聞でも、市文化センター跡地への車両基地の移転というのは、2015年度に県と徳島市、J R 四国の三者が協議した結果、騒音とかJ R の負担増でかなり難しいのではないかと出ておったということなので、これから県は御成婚広場にホールを建てたいのかも知れませんが、これは徳島市がどういう判断をするのかに懸かっています。現在、県市協調の新ホールは旧の文化センター跡地を含めたあの土地に造るというふうなことで生きていますので、このことを企業局としても念頭に置いて、当局と県と十分に話し合うべきだろうというふうに思います。

企業局としての駐車場事業ですから、あそこを勝手に潰されるということになれば、企業局自体が今まで積み上げてきた、いわゆる収入源、それから県民への駐車場のサービス、そういうふうなことが縮小するわけでありますから、そこら辺はきちんと話し合いの中で、まちづくりにも県土整備にも、ものを申すべきではないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

香川経営企画戦略課政策調査幹

ただいま庄野委員より、藍場浜地下駐車場の今後の状況について、御質問を頂きました。

本日、経済委員会で報告されます新ホールの整備候補地調査結果につきましては、昨年の11月の議会での議論を経まして、仮に藍場浜公園西エリアで建設した場合の概略が今回示されたものと理解しておりまして、建設場所が確定したことではないと認識しております。

今後は、この度の調査結果を踏まえまして、県議会の御議論であったり、県民の皆様の御意見、それから庄野委員もおっしゃられていました徳島市との調整、様々なステップを経まして決定されるものと考えております。

いずれにしましても、今後の地下駐車場の件につきましては、知事部局、それから駐車場事業に与える影響につきまして、指定管理者と協議をして分析を行ってまいりたいと考えております。

それから、繰り返しになりますけれども、今後は新ホールをはじめ、県都まちづくりの方向性という様々な議論が展開されるものと考えております。

庄野委員

そういうことなので、企業局としても長年培ってきた技術・ノウハウ、そして県民への駐車場事業の提供も含めてマイナス面はあると思います。

そういう意味では、きちんと話し合いをしていただきたいということを申し上げて、終わります。

梶原委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で企業局関係の調査を終わります。

議事の都合により、休憩いたします。（10時58分）